2023 年度夏学期 GS ブラジル １班

外国人の親を持つ子ども達の教育現場における課題と考察

有澤、和泉、江口、黒岡、安田、山本

活動目標

１.在日外国人の進学率が低いことに疑問を持ち、進学率を上げる為に学習環境の提供など私たちにできること学ぶ。

２.外国籍の子どもの保護者が日本語話者でない場合や、文化的背景から生まれる課題について学ぶ。

３.文化への理解や、教育に関する意識などの乖離から生まれる親子間での溝をなくすためにできることを考える。

インタビュー内容

５０代 ブラジル人 既婚女性（日本人の夫＆息子）
日本在住３０年の方にインタビューを行った。
内容の一部を抜粋し、記載する。

Q.日本に来て困ったことは？
A.文化の違いや、日本語を上手に話すことができなかったことにより職場で馴染むことができず孤立していたこと。

Q.育児をする上で感じたことは？
A.子供の頃は日本語・ポルトガル語の両方の言語を教えていたが、日常的に使用する日本語が母語となり、親子間で日本語能力に差が生まれた。

Q.子どもが小学校に通う際、困ったことなど教えてください。
A.教育のシステムや、準備物などの説明を充分に受けておらず、理解することに時間がかかった。周りの保護者からの支援により課題は解決した。

Q.日本とブラジルの子ども達の一番の違いは何？
A.日本の子供たちの暴言など日常的な言葉遣いが気になる場面があった。

Q.日本との文化の違いで感じたこと
A.習い事や部活動に対する熱量。日本人はまじめで休むことがほとんどない。一方ブラジル人は対照的で、自由に行きたい時に行く為、国民性を感じた。

Q.在日外国人の子ども達が過ごしやすい環境を作るために、我々ができることは？
A.見た目や、家庭での生活など目立つ場面も出てくる。文化の違いなどを周りの大人たちが知り、フォローしてあげることが大切である。

GS 期間中の主な流れ

・事前学習 －８月上旬－
ブラジルとの交流の歴史について学ぶ
インタビュー内容の草案を作成

・期中学習 CBK での活動
移民ミュージアムの見学
日本語の学習支援・ポルトガル語講座
在日ブラジル人の子ども達と交流
日本文化紹介
日本に暮らす外国人の方にインタビュー

・事後学習 －９月前半－
インタビュー結果の振り返り
ポスター制作

NPO 関西ブラジル人コミュニティ（CBK）について

日本に住むブラジル人が、地域の一員として暮らすために、サポートを行うことや、異国籍の人々が交流できる場を設けることを目的とした施設。

考察

①教育的な情報などを正しく伝えるためには、周りの保護者の協力が必要である。

②親子間でも日本語能力や文化への理解度に差が生まれる。その際に生まれる親子間の溝は、時間が解決する。

③日本で暮らす外国人が最も必要なことは、日本語を理解することである。日本人が最も必要な配慮は、必要以上な配慮をするのではなく、普通に接する。

④ＣＢＫで活動を行える家庭は、高校進学すら困難である世帯ではないと考える。施設の認知度は不足しており、手助けしてくれる場所の存在を知ることが文献で見た家庭への支援になると感じた。

⑤子ども達は学校などで、コミュニティーを形成する。しかし、大人になるにつれ困難となり他者との交流から学ぶことができない。

まとめ

外国人の子ども達が異国で教育を受けるにあたり保護者の存在は、とても重要である。両親の文化的な理解が子どもの学習環境を整える要因につながる。

大人と子どもの成長スピードは同じではなく、子ども達は大人を抜き、逆転現象が起こる。その際に、親子ではない第三者として手伝える部分を理解し配慮しなければならない。

参考：関西ブラジル人コミュニティー ,CBK　http://kobe-cbk.server-shared.com/